

小学校 生活・総合的な学習の時間 部会

部会長名 川崎町立川崎小学校 校長 益田 茂

実践者名 川崎町立川崎小学校 教諭 松尾 知佳子

1 研究主題

実感を伴った体験活動から主体的・対話的な子どもを育てる総合的な学習の時間
～米作り・もちつき体験活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 現代社会の要請から

現代社会の子どもたちは、個性や能力を生かして自らの学びを深め、将来の自分自身の活躍につなげていくことが求められている。学校教育で学んだことをきっかけとして、興味や関心に応じた多様な学習機会を設定していくことが、今後さらに期待されているところである。

これからの社会を生き抜くためには、「課題発見・解決能力」「論理的思考」「コミュニケーション能力」といった力が、強く求められている。次期学習指導要領においても、総合的な学習の時間で育成する能力として求められる資質・能力と位置づけられている。体験活動を通して、実感を伴って受けとめたことや気付いたことを「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」しながら論理的に思考を重ね、問題解決に生かしていくことは大変意義深い。

(2) 児童の実態から

校区内には、田園風景が広がり、米作りを学ぶ環境としては望ましい地域で児童は日々生活をしている。生活科の学習では、1学年では朝顔を、2年生ではトマトを栽培し、植物を育てる喜びを味わうことができている。3学年では、国語科「すがたを変える大豆」の学習との関連から味噌作り体験活動を行っている。また、本校の教育課程では、5学年の総合的な学習の時間に田植え・稲刈りの体験活動が位置付けられており、毎年、G・Tの指導のもと農業に関わる体験活動を行うことができている。このような恵まれた環境の中、学校と地域が連携を図りながら効果的な学習を位置付けることができている。

本学級の児童は、田植えなどの体験活動を行ったことがある子どもが80%であるが、田植えの事前の準備段階についての知識はほとんどない。5学年において、理科では「発芽の条件」、社会科では「米づくりのさかんな地域」の学習を行う。農家の苦勞など、実感を伴った学びを行う上では大変意義深い。

3 主題の意味

(1) 実感を伴った体験活動とは

総合的な学習の時間においては、横断的・総合的・探求的な学習を通して、実感を伴って受け止めたことや気付いたことを「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」しながら思考を重ねていくことが大切である。体験を通じた探求的な学びを通して子どもたちが新たなものの見方や考え方・生き方を獲得していくために豊かな体験活動の中で獲得していくこと

である。

4 研究の目標

総合的な学習の時間において、米作り・もちつき体験活動を通して、主体的・対話的な子どもの育成を図る指導の在り方を究明する。

5 研修の仮説

総合的な学習の時間において、以下のような手立てをとれば、

- (1) 各段階において指導の在り方を明確化する。
- (2) 単元を通してグループ学習を行い、他者と協働した学習を仕組む。
- (3) 対話・交流の場を仕組む。

6 研究の計画（授業の計画）

(1) 実践① 単元「川小米を育てよう」

実践② 単元「米米大作戦」

(2) 単元の目標及び計画

単元	川小米を育てよう（実践①）	総時数	6時間	時期	6月
単元の目標	○米作り体験を通して、米が日本の主食であり、食生活に密接に結びついていることを知る。(知識や技能) ○田植え体験を通して、農家の苦労や思いについて考えることができる。(思考力・判断力・表現力等) ○仲間と協働することのよさや達成できた手応えを実感し、困難なことに対して粘り強く取り組もうとする。(学びに向かう力・人間性等)				
次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点	
一	1	○米作り体験活動について知り、活動の見通しをもつことができる。	・米作り体験活動について知り、単元の見通しをもつ。	・育苗活動や田植え活動について時期や活動方法を知らせ、意欲をもたせる。	
	1	○種もみの準備をし、田植えに向けた種まきをすることができる。	・G. Tの話聞き、グループで協力し、工夫しながら活動する。	・種まきの活動を通して、仲間と協力することの大切さを意識させる。	
二	2	○育苗活動を行い、その成長を観察することができる。	・グループで役割を分担し、責任をもって水やりを行う。	・仕事に責任を持たせるためチェック表を活用させる。 ・理科の学習と関係付けて考えさせる。	

三	2	○田植え体験活動を行うことができる。	・自分の役割に責任をもち、活動する。 ・ふり返りを行う。	・安全に注意するように指導する。 ・対話・交流の場を仕組む。
---	---	--------------------	---------------------------------	-----------------------------------

単元	米米大作戦（実践②）	総時数	9時間	時期	1月
単元の目標	○米作りが我が国の食生活を支え、豊かな食文化につながっていることがわかる。（知識・技能） ○収集した情報を整理・分析し、問題解決に向けて考えることができる。（思考力・判断力・表現力等） ○仲間と協働することのよさや達成できた手応えを実感し、困難なことに対して粘り強く取り組もうとする。（学びに向かう力・人間性等）				
次	時	具体的な目標	学習活動・内容	指導上の留意点	
一	1	○活動の見通しをもつことができる。	・田植え・稲刈り体験活動についてふり返り、単元の見通しをもつ。 ・もち米を使ってやりたいこと、学びたいことは何かを話し合い、交流する。	・学習に対する意欲をもたせるよう自分たちで準備などを行うことを知らせる。 ・対話・交流の場を仕組む。	
	3	○もちについて調べ、まとめることができる。	・もちやもちつきについて知っていることをグループで交流する。 ・もちつきの歴史、やり方、準備物、ポイントなど課題を決め、調べることができる。	・情報収集の方法を確認する。 ・情報モラルについて確認する。	
二	2	○もちつき大会の準備をすることができる。	・グループで役割を分担し、責任をもって準備を行う。	・役割分担の内容を示し、スムーズに活動に入れるようにする。	
三	2	○もちつきを行うことができる。	・グループで協力して取り組む。	・積極的に準備を行っている姿を称賛する。	
四	1	○ふりかえりを行うことができる。	・もちつきのふり返りを行う。	・体験を通して気がついてことをまとめる。 ・対話・交流の場を仕組む。	

7 指導の実際

(1) 実践①

教師の働きかけ	児童の反応
○G. Tと連絡を取り、田んぼの借り入れが可	

能かどうか打ち合わせを行う。

- 育苗・田植えの時期や指導の依頼などG.Tと打ち合わせを行い、日程を検討する。
- 理科「植物の成長」について学ぶ。
- 米作り体験(育苗)に対する意識をもたせる。



【写真1】 意欲化を図る掲示

- 前日にG.Tへの確認を行い、種まきの準備を行う。
- ・グループで協力して活動するよう促す。

- ・米作りについての今までの自分の経験をふり返る。
- ・田植えまでの活動について見通しと意欲をもっていた。
- ・理科の学習の知識を生かし、育苗に必要な種もみの発芽や必要条件について考えた。

- ・G.Tの話聞き、活動の見通しをもつ。
- ・疑問に思ったことなど質問した。
- ・活動中はグループで協力するよう努めていた。



【写真2】 種まきの様子

- 育苗に大切なことを考えさせ、水やりへの意欲と責任感を持たせる。
- 児童の放課後や休日の間の苗の管理を行う。

- ・グループで意識し、水やりを行っていた。授業時間の中だけでは水の量が足りないことを考え、休み時間等も1日4回行った。
- ・苗箱の観察を行い、植物にとっての水の大切さや水をやらないと土が乾燥してしまい育たないことを実感していた。田植えまでの農家の苦勞についても感じる事ができた。



【写真3】 校内の育苗の様子

<p>○天候などを考慮し、田植えの日程の最終確認を行う。</p> <p>○田植えの持ち物の準備やめあてを確認する。</p> <p>○手作業と機械作業との比較のため、機械で植える様子を見せていただくようにする。</p> <p>○ふり返りの中で、対話・交流の場を仕組む。手作業と機械作業の違いに着目させる。</p> <p>○社会科「米づくりの盛んな地域」の学習につなげる。</p> <p>○10月の稲刈りについての確認、日程調節を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動中は任された区画の田植えをしっかりと行おうと努めていた。 ・ふり返りの中で、手作業の大変さと機械の便利さや効率性を感じることができていた。社会科の学習においても自分たちの体験から農家の苦労や機械導入の効率性を話し合っていた。 <div data-bbox="901 627 1244 884" data-label="Image"> </div> <p>【写真4】 田植えの様子</p>
--	--

(2) 実践②

教師の働きかけ	児童の反応
<p>○G. Tや保護者への協力を仰ぎ、日程や準備物の確認を行う。</p> <p>○「川小米を育てよう」の学習をふり返り、単元の見通しを持たせる。</p> <p>○もちつきについて知っていることを考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・米作り体験を想起する。 ・もち米でやりたいことを考え、もちつきを選んだ。 ・保育園等でのもちつきの経験を思い出し、もちつきの準備段階について知らないことが多いことに気付く。
<p>○情報収集の方法と情報モラルについての確認し、活動させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題を明確にし、情報収集を行い、まとめていた。 <div data-bbox="1029 1489 1332 1892" data-label="Image"> </div> <p>【資料】 A児のまとめ</p>
<p>○使用道具の確認をしておく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが調べたことからもちつきの手順に

<p>○もちつきの手順の共通理解を図る。</p> <p>○準備の役割分担をする。</p>	<p>ついて話し合い、準備物や活動等の見通しをもっていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれのグループの分かれ、積極的に準備を行っていた。もち米をとぐ際、寒い時期に準備するもちつきの大変さを感じていた。  <p>【写真5】 準備の様子</p>
<p>○保護者の参加要請をしておく。</p> <p>○もちつき大会のシナリオを作成し、児童に進行を任せる。</p> <p>○グループ分けを行い、めあてをもたせる。</p> <p>○活動のふり返しを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 司会グループを決め、自分たちで役割を決め、練習をしていた。 グループで協力し、もちつきをしようとしていた。なかなかできない貴重な経験であることを自覚し、積極的に活動していた。 自分たちがついたもちを食べ、つきたてのもちの柔らかさやおいしさを感じていた。  <p>【写真6】 もちつき大会の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ふり返りの際に、自分が感じたことや気付いたことなどを交流していた。

8 研究のまとめ

(1) 活動における指導の在り方を明確化する。

単元全体の見通しを持たせることができた。そのため、子どもたちは目的意識をもって取り組むことができた。

(2) 単元を通してグループ学習を行い、他者と協働した学習を仕組む。

単元の中でグループ活動を仕組んできた。グループ活動では個人の役割を明確化し、取り組んでいくことが大切である。今回、同じ目標に向かってグループ活動を行うことが多かったため、1人ひとりが役割をもち、協力しながら取り組むことができていた。

(3) 対話・交流の場を仕組む。

自分の考えを明確化し、友だちと交流する場面を仕組むことにより考えが深まる場面が見られた。この交流活動を新しい視点をもったり、知識を獲得したりすることができていた。

9 成果と今後の課題

- 総合的な学習の時間で大切だとされている横断的な学習を理科や社会科の学習と結びつけながら行うことができた。体験活動から実感を伴った理解につながったと感じる。
- 地域の人材をG、Tに招き、活動を行うことは大変有効であった。活動以外でもG、Tとの関係づくりができていた。
- 校区内で田んぼの借り入れが不可欠であるため、農業を営むG、Tとの連携が必要となってくる。
- 耕作の関係で、借り入れをさせていただく田んぼから学校までの距離があったため、頻繁に観察をする環境を設定することができなかった。また、田植えを行ったあとの水の管理等はG、Tにお願いすることになってしまった。農業の苦労ややりがいを実感させるためにも必要な体験である。
- 対話・交流活動についてさらに踏み込み、さらなる深い学びにつながるような手立てを考えていく必要がある。

◎ 参考文献

- ・中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について」平成28年
- ・「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」文部科学省 平成20年
- ・「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」文部科学省 平成29年
- ・「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」文部科学省
- ・「生活・総合「深い学び」のカリキュラム・デザイン」東洋館出版社 平成29年